



SUGATA

No.12

特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場



特定非営利活動法人
小笠原流・小笠原教場

ごあいさつ

2016年に海外で講演をして以来、海外の方々と小笠原流がどのような関係を築いていくべきなのかという課題を常に考えてまいりました。物理的な問題があること、専業として小笠原流が行っていないことなど様々に考慮すべきことがあります。そろそろ何かしらの方向性を出すべきではないかと思ひ、本年は多くの海外の方々と交流する中で実情と理想などを理解することにつとめてまいりました。そのための活動を当法人は支援をしています。海外の門人がただ増えても意味はなく、正しく小笠原流を理解し伝えていただけの方でなければ意味がありません。適切な方向性を導く補佐をすることは今後の小笠原流の方向性にも大きく関わりと感じます。国内の方々と国外の方々との関係性などを考慮しながら小笠原流を永続的に継承できるようにしていくためには様々な模索が必要となつてまいります。その支援をすることは当法人にとつて大きな意義であると思ひます。会員の方々のみならず、ご縁をいただきました皆様と伴に、小笠原流の歴史を築いてまいりたいと思ひますので、変わらずご支援いただきますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人

小笠原流・小笠原教場

理事長

小笠原清基

私の履歴書

奥山 安世



清基様から「姿」私の履歴書の寄稿のお話をいただきました。「私はただ休まず稽古を続けさせていたでいる者です。」と辞退の言葉とお聞き留めくださったと思っております。再びのお声に僭越ではありますが、ありがとうございますお受けいたしました。

小笠原流（礼法）

私の人間形成の礎となりました。
感謝の思いを重ねております。
私は、東京生まれ、東京育ち。ただ戦時下のひとときを疎開先の北陸石川で過ごします。

終戦

小学生の私には青葉萌える華やぐ春を、そして秋の色づく姿をと四季の移ろいを自然の流れの中で知った思い出される一齣でございます。
復興未だの東京に戻り、両親兄弟とともに娘時代をつがなくの日々でした。

結婚

二人の子供の幼児期を横浜で過ごした後、千葉県松戸市に移りました。長男が学齢期を迎えた時でした。自分も新一年生となつてなにか学びたいとの思いで開講していた千葉柏そごう友の会へ講座の下調べに参りました。

格子戸の奥に目にした凛とした後ろ姿、すぐに受付で尋ねると「小笠原礼法の先生でいらっしゃいますか？」

いたしました。今までの稽古とのあまりの違いに驚きます。
床の間の中央に「進退中度」の掛軸と香炉、しっかりと本畳の部屋でひたすら基本稽古、三時間余り、静寂の中清信先生のお袴の衣擦れの音が遠くに近くにと…。努力を重ねた日々でした。
次の稽古日が待たれました。

門人の方々の稽古を拝見することができるようになつて、「見取稽古」を続けました。レディースクラブ閉講まで教場と合わせての稽古でした。
昭和六十年十月、清信先生から女礼七等の許状を賜りました。

ます。」とのお話でした。受講更新が数ヶ月先になりますとのことでした。が、すぐに「小笠原先生が途中でよろしい…」と係の方からの伝言。

昭和五十年五月、そごう友の会入会。
数日後に三十世宗家 小笠原清信先生、充子奥様お二方のおめもじ、ご挨拶いたしました。

温かな眼差しは忘れ得ぬ思い出でございます。
私の小笠原流礼法の稽古始めの日となりました。緊張で水色の絹のブラウスに汗が滲みました。背後から大きな手が、「屈体」のお教えでした。清信先生、充子奥様の教えをいただくことができた恵まれた稽古の場でございます。

この頃小笠原礼法の講座、NHK文化センター 青山、朝日カルチャー、少し後に伊勢丹日経教室が開講いたしました。

昭和五十六年四月、清信先生から女礼八等の許状を賜りました。直前に門人の方から授かりの作法を教えたいたでの拝受でした。出来不出来を思うと今でも身が引き締まります。春の名残桜花舞う穏やかな日、感謝の思い深くいたしました。

翌年の礼法研修会でお孫様（景子様）の帯の祝の介添え役をいただきました。人生通過儀礼を学んだ初めての経験でした。愛らしさに緊張が和らぎました。

後々も小笠原家ご家族の人生節目の儀式には折々に臨ませていただき、慶事を寿ぎました。そして儀式の一つ一つを丁寧に学びました。神社奉納

儀式の参加等多くの経験の機会を戴き学んだことを大切に自身の内に育みました。

昭和五十八年、清信先生が古希の御祝いをお迎えになりました。その折記念に出版された「礼法と作法全書」その二ページに載せていただいた事は、恐れ多いことでした。ますますの精進を自身に伝えました。

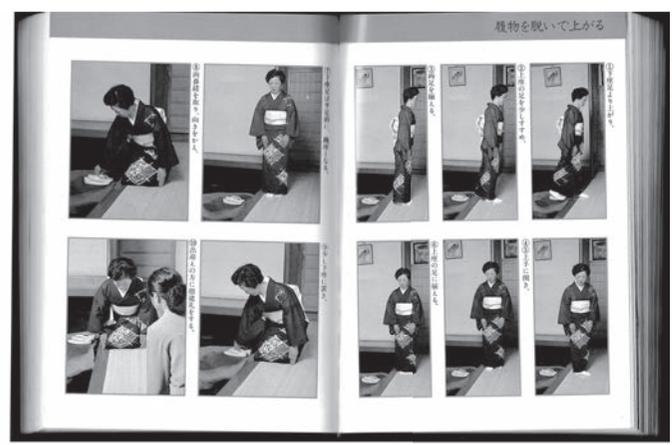
この年の七月、清信先生、清忠先生によって「小笠原流饗応膳二汗五菜」再々現の会が催されました。五十年ぶりの武家礼法による貴人に対するもてなしの作法の再現でした。
伝統文化の継承の大切さを実感いたしました。

東京に転居

小田急レディースクラブ（旧ファミリースクール）での稽古となります。充子先生がご指導くださいました。毎年十二月の稽古日は新春の準備で爛鍋に付ける雌蝶、雄蝶の折り方の教え、先生が京都で用意くださる紅梅、白梅の口花は美しく、仕上げを楽しみに一生懸命でした。

お正月には香を焚いでくださいました。常盤の松、松重、千代の聲などお正月にふさわしい銘のお香を聞かせてくださいました。至福のひとつでした。このことが後に私が香を学び、心遊びすることへの導きとなりました。

レディースクラブでの稽古を続けるなか、お教室の留守番役を仰せつかることができました。不安になり稽古研鑽を積み重ねばと教場での稽古を決心



昭和58年出版「礼法と作法全書」より



明治神宮にて 礼法教室 右端：奥山

しよう。ただただ夢中で仕上げました。充実の一日でした。日の落ちた芦花公園駅までの道、「ありがとう。」と独り言、吐く息は白く。

熨斗三方の披露が行われる度にこのことを思い出します。

長女が結婚の折、結納の品を小笠原流の折形で包み、飾りました。清信先生が檀紙で折るようにと神保町にある紙屋さんをお教えくださいました。金銀の水引を掛け、戴いたお手作りの竹箸の小道具を使って、老いの波に様々な思いを込めて仕上げました。

基本稽古、八等項目、八等折り方、七等結びと学び稽古を重ねてゆきました。

平成四年五月御宗家清信先生の訃報。すべての色が失せました。

武士の誇りを思わせる鋭い眼光、その奥には向き合う者に安らぎを感じさせる「慈愛」の眼差し、お優しい笑顔でした。

その年の歌開始の御題が「母」でした。清信先生は子馬に寄り添い見守る母馬の姿を一枚の色紙に描かれました。軸にして大切にいたしております。

三十一世宗家清忠先生のもとの稽古の日を迎えます。

現宗家が、転勤先からお戻りになって明治神宮会館研修道場での稽古始まりの伝えがありました。

流の伝承の一助となるよう、小笠原流の中で学び育んだ事柄を還元できればと思います。

小笠原流の御栄を祈り上げます。



清基様、彩香様 婚礼の儀

少し心萎えていた時でした。嬉しく早速に稽古に伺いました。神宮の参道、神聖な木立の木洩れ日を、そして小鳥のさえずりを耳に、稽古に向かえたことは喜びでした。

時を経て、稽古場が研修道場から杉並の大宮八幡宮の境内にある「神泉亭」に移りました。小笠原家ご家族、そしてお小さいお孫様方を交えての稽古は、ほほえましい稽古風景でした。

平成九年御宗家の教えを戴くため、京都礼法研修会（梨木神社）の仲間入りをさせていただきました。多くの方にお目にかかることができ、今もこの時の出会いを大切にいたしております。東京駅一番のぞみに乗っての数年間でした。正直楽しい旅でもございました。

平成十五年十一月充子先生旅立ちを知らされません。途絶えていた教場研修会の知らせがなぜか届きました。（後になってこの会が充子先生教場最後の研修会であったことを知ります。）出席。「お子様方今は…」と問われたお優しいお言葉が図らずも最後のお別れとなりました。

日本画にご精進でいらっしゃいました。美しい花々に心寄せて、絵筆を進められるお姿を思い出しました。

平成十八年、御宗家から女礼六等の許状を拝受。驚きと戸惑いの中、望外の喜びでございました。

八十路を越えた今、記憶にあやまりないことを願って筆を置きます。



清真様 喰初式

御宗家、ご家族、門人の方々のお陰と感謝いたしました。

平成二十年十月、NPO法人によって千代田礼法教室（18：00〜）が開設されました。門人のお一方とともに関わらせていただきました。ほとんどの方が仕事を終えられての稽古でした。お帰りの折りに「ありがとうございました。」の言葉にお役に立たねばと心掛けました。伝えることを学ばせていただいた日々、十年を経ておりました。深謝。

ある年のお正月、清基様から彩香様をご紹介いただきました。思わず「ワアッ！」と無作法であったと恥じた思い、今も。嬉しさのあまりでした。

ご結婚
清基様、彩香様の婚礼の儀は厳粛に執り行われました。清楚な儀式に感激いたしました。待たれた清真様の御誕生、門人の私共も大喜びでございました。

喰初式では乳母役、髪置の式では介添をさせていただきますました。たくましいご成長を願いました。

先日御宗家の喜寿の御祝のお席で、御宗家がユーモアたっぷりに純子奥様をたたえ労われたお言葉に、会場は笑いに溢れました。私は一人涙しました。純子奥様には常に感謝の思いしております。小笠原

私と小笠原流

木村 素子

小笠原流との出会い

私と小笠原流との出会いは2013年春頃でした。その秋から「橋大学大学院経営管理研究科国際企業戦略専攻（橋ICS）」で外国人留学生向けに「日本文化講座」と題したプログラムを担当することになり、その中で弓馬術礼法の体験をご指導いただけないか、ご相談させていただいたのがきっかけです。

実は、それまで小笠原流の弓の儀式や流鏑馬神事を一般客として拝見したことはありませんが、直接のつながりはありませんでした。驚かれるかもしれませんが、最初のご連絡は、ホームページの「お問い合わせ」フォームからお送りしたメッセージでした。すぐに「小笠原流としても海外への発信を強化したいと考えていたところでした。ぜひお会いしましょう。」とお返事をくださり、打ち合わせさせていただいたのが縁の始まりでした。

若先生ご夫妻にお会いして、家業とは異なる職業につきながらも伝統を継承される責任感、新しい時代に合わせ、国境を越えて小笠原流を伝えようとするご意欲、そして何より、凛としたお姿と

物事を柔軟に受け止める姿勢に、大変心打たれたことを覚えています。

外国人にわかるように日本文化を伝える

私は「和なびジャパン」という一般社団法人を運営しており、外国人向けに日本の社会や文化をワークショップ形式で伝える活動をしています。東日本大震災の際、言語・文化の壁から困難を感じている在住外国人のための防災ワークショップを立ち上げて以来、ニーズに応える形で活動を深めてきました。

一橋ICSは社会人向けのMBAプログラムで、約8割が外国人留学生、すべての授業を英語で行っています。学生達は、卒業後、日本とアジア・世界をビジネスで繋いで行くことを期待されており、「日本文化講座」は、世界の中でも特殊と言われる日本のビジネス文化や、その背景にある価値観を学び、理解を深めるために立ち上がったプログラムです。これを「からデザインし、実施する役割を

の精神が背景にあることは理解しつつも、異なる文化環境で育った人にとっては、言葉での解説がない状態で「体験から学べ」というのは無理があり、表面的な理解に終わってしまうことが多いが実情です。

そこで、日本文化講座では「和」「神仏」「節」「礼」「粋」「かわいい」という日本に特有の6つのコンセプトを中心に、歴史や思想哲学を解説する講義と体験を組み合わせる構成とし、深い理解を促すプログラムを作成することにしました。弓馬術礼法体験の他には、茶道、神道儀礼、座禅、華道、書道、日本料理、日本舞踊／歌舞伎、原宿・秋葉原かわいいツアーなどがあり、それぞれの道の専門家にご指導をお願いしています。

「礼」のコンセプトを伝える上では、講義で儒教の日本文化・思想の影響と、武士道としての発展に

ついて取り上げたいと思いましたが、どんな体験と結びつけるべきか、悩んでいました。

そんな時、新渡戸稲造の名著『Bushido - the Soul of Japan』の中の一節が目にとまりました。

「The end of all etiquette is to so cultivate your mind that even when you are quietly seated, not the roughest ruffian can dare make onset on your person - 28代宗家小笠原清務先生が「礼」の本質を説かれたお言葉でした。この素晴らしい世界観に少しでも触れるような体験をさせていただけたら...と考え、勇気を持って小笠原流の門をたたかせていただいた次第です。

今考えると、大変恐れ多いことですが、世界から集まる学生に心を開き、小笠原流の教えと、伝統の本質を説いてくださる若先生、そして門人の皆様に、心より感謝しております。

いただいたわけですが、担当することになった和なびジャパンの共同代表の西坂と私は、幼少期を外国で過ごし、日本人でありながら、自分の文化についての質問に答えられなかった経験が多々あり、「日本文化の本質を理解すること」そして「外国人にわかるように伝えること」に特別な思いを持っています。

外国人にとって日本文化が「わかりにくい」大きな理由は、言語化されていない作法や習慣が多いこと、そして文脈依存度の高いコミュニケーション・スタイルにあると言われます。

「不立文字」を基本的立場とする禅の影響や、「道



教場にて 外国人向け体験会 右端：木村

世界のビジネス・リーダーが小笠原流の体験から学ぶこと

世田谷教場で礼法・弓術・弓馬術の基本を学ぶ体験は、たったの二時間ですが、日本文化についての深い学びと、人としてのあり方について本質的な気付きをいただくような、素晴らしい時間となっています。

現在では、世界のビジネス・エグゼクティブ向けの研修や、様々な分野でイノベーションを起こしている起業家が集う会議などの機会においても同様の体験をご指導いただいておりますが、参加者が体験を振り返って寄せてくださるコメントに共通する点を3つほどご紹介させていただきます。

『所作とリーダーシップ』リーダーの立居振舞が仕える人達に与える影響について、深く考えたことがなかった。呼吸に動作を合わせることで、尊厳と美しさが自然と身につく、相手に安心感を与え、信頼関係を築くベースになると感じた。ぜひ取り入れたい。

『所作とマインドフルネス』日本は、礼節が行き届いていて素晴らしいと思う一方で、堅苦しい社会で生きる個人は苦しいのではないかと、という疑問があった。小笠原流の体験を通じて、武士が二つの所作を注意深く行うことで、筋力も心も鍛えていたことに気付かされた。いわゆる「マインドフル」な状態を作り出し、和やかな対人関係を築くため



教場での弓術、弓馬術体験



教場での礼法体験



八芳園での木馬演武

小笠原流 NPO 交流サイトができました

当法人の会員の方々の情報交換や
交流を深めることを目的とした掲示板ができました。



利用をご希望の方は下記のように登録手続きをお願いいたします。

登録方法

①forum@ogasawara-ryu.gr.jp宛に、件名を『交流サイト登録希望』として、以下の情報とともにメールをお送りください。

- 登録用メールアドレス
- 氏名、読み仮名
- ハンドルネーム(お名前以外で掲示板の使用をご希望の方は、ハンドルネームを記載してください)

②メールアドレス登録完了のご連絡とともに、新規利用の案内メールを送らせていただきます。

メールに記載されているURLをクリックして、利用の手続きに進んでください。

- メールアドレス認証用に、メールが送られます。@site-members.comからのメールをお受け取りいただけるように、フィルターの設定をご変更ください。
- 事前に登録いただいたメールアドレスにてログインをしていただきますと、交流サイトを閲覧・記載することが可能となります。



講演会で通訳する様子

に礼法があるのだと腑に落ちた。

『伝統とイノベーション』日本は最先端の科学と伝統が共存している稀な国家であると感じる。二つに矛盾を感じないのか気になっていたが、「伝統文化は時代によって変わらなければ生き残れない。その中でも変わらぬ、変えてはいけない伝統の本質とは何かを問い続けなければならない」という言葉を聞いて感銘を受けた。時代に合わせてイノベーションを起こし続けてきたからこそ、31代にも渡って続き、その結果が小笠原流の伝統となったことに気付かされた。自分のビジネスにもその視点を活かしたい。

敬意を込めて、言葉を紡ぐ

体験の通訳も務めさせていただいているご縁で、ご宗家ご夫妻による「小笠原流「和食の作法」」一般社団法人日本文化継承者協会の Genuine Japan

パンフレット、そして今年出版となる「なんともなくて気高きぞよき」の英語翻訳も担当させていただきました。

今まで取り組んできた中で最もチャレンジングな翻訳だったように思います。外国人にもわかるような訳文と、膨大な脚注を含む背景知識の解説を和なびジャパンの翻訳チームで考え、アメリカ人の英語校正担当、そして若先生ご夫妻と一緒、一つ二つ言葉の理解や、歴史的事実などを確認しました。本当に外国人に伝わる表現になっているか、妥協せずに何度も打ち合わせを重ねて、言葉を紡いできました。大変な作業でしたが、1187年以來、伝統を継承されてきた全ての方への心からの敬意と感謝の気持ちから取り組ませていただけたこと、大変光栄に思います。

「礼」が隅々まで浸透する世界へ

現代の日本において、「礼」は形骸化しているという指摘もありますが、継承されてきた伝統の中に、そして今を生きる人々の中に、他者へのおもいやりと尊敬、共感と信頼が、確かに息づいていると、外国の方はみえています。多様な外国人と日々接していますが、日本で生活をされた多くの方が、日本人の礼儀正しさに感銘を受け、母国に帰ってもできる限り実践したいとおっしゃいます。

“Politeness is Contagious”と彼らは言います。礼儀正しきは伝染する。つまり、一度でも、心から

丁寧大切に扱われた経験がある人は、他者に対してもそうありたいと望む、ということです。

深刻な分断や対立を経験している現代の世界の各地で、一人一人が大切な存在として尊重される社会を築いていくために、「礼」は国境を越えて共有されるべき大切な文化資産ではないかと感じています。弓馬術礼法小笠原流が継承してきた「礼」の本質が、全世界に広がっていくことを願わずにはいられません。同様の志をお持ちの方に、拙稿が少しでもご参考となるならば幸いに存じます。

◆寄稿者プロフィール

木村 素子(きむら もとこ)

慶應義塾大学総合政策学部卒業。国際協力銀行(当時)で円借款を通じた復興支援・平和構築プロジェクトなどを担当。NPOで難民認定の法的支援業務に携わった後、留学生や難民・庇護希望者のための日本語教育に取り組む。東日本大震災を機に、防災教育を中心に在住外国人の日本社会へのソフト・ランディング支援を行う非営利団体「和なびジャパン」を創設。現在、共同代表理事。一橋大学大学院経営管理研究科 国際企業戦略専攻 非常勤講師。

子どもの礼法教室

その5 着物のたたみかた

着物をたたむ機会というのは現在ではほとんどなくなりました。しかし、着物のたたみ方というのは特殊なことではありません。その「モノ」が着物なだけであって、洋服であったとしても大差は無いと思います

たたむというのは、しわが付かないようにするためであったり、小さくしてかさばらないようにするためであったりという意味合いで行われます。スーツなどは、たたまずに吊るしておきますが、これも、しわが出来ないようにということです。

着物も本来は吊るしておいたらよいのかもしれませんが、吊るしておく、かけている部分に常に負荷がかかるので生地を傷める可能性があります。つまり、着物であれ洋服であれ保管の方法というのは構造や使用頻度などを考慮しながら対応を変えるべきなのです。

着物というのは平面構造になっています。ジャケットは立体構造ですので、平面構造という表現がどういふものを指しているのかお分かりいただけるかと思えます。縫い目でたたんでいくというのが基本的な考え方になります。生地はたたんだ状態で長時間置いておきますと「折切れ」とい

て繊維が切れてしまうことがあります。そうなりますと、修繕が難しくなりますので縫い目、つまりは糸のところで折り曲げるわけです。詳細は写真を使って説明をしていきます。

8では、裾は通常下であり、衿は上にあります。そのため、折り返した際にもその原則を守ります。これは、服を着替える際にも同様です。靴下や下着を一番上に置く方がおられますが、下の物は下にして重ねるのがよいかと思えます。つまり、汚れている物をあえて上にするには無いということです。

Tシャツなどの洋服であっても、縫い目であったり折しわが目立たないところで折ってたたむのがよいかと思えます。店舗などのたたみ方は商品を見せるためのたたみ方ですので、家庭でのたたみ方と異なることは当然のことかと思えます。



1 男物の着物は左に衿がくるように、女物の着物は右に衿がくるようにおきます



5 上側の袖を上側に折り返します



2 手前側の衿を折り返します



6 下側の袖を下側に折り返します



3 衿を折り返します



7 裾が下になるように3つ折りにします



4 向こう側の脇縫いと手前側の脇縫いを重ねます



8 完成です



ADIVA 株式会社 PRESENTS

旭区誕生 50 周年記念事業

小笠原流
流鏝馬祭

— やぶさめまつり —
Ogasawara-Ryu Mounted Archery

一般観覧募集 観覧無料

旭区で流鏝馬を見られるこの機会に歴史を肌で感じませんか?
応募方法はホームページを御覧ください

旭区を紐解くと鎌倉時代が見えてきた
旭区は今年を満 50 周年、節目をきかすべく「旭区」の歴史に秘れてあるのかもしれない。

2019 年 10 月 27 日(日) 流鏝馬:13:00~14:30

会場:こども自然公園 雨天決行

お問い合わせ
旭区生涯学習課 小笠原流流鏝馬実行委員会 / 月曜:旭区役所 / 詳細はホームページ / 実行時間:月~金 午前9:00~午後5:00

理事長のつぶやき

横浜市旭区流鏝馬

当法人理事長 小笠原 清基

2019年10月27日に旭区誕生50周年記念の
流鏝馬が子ども自然公園にて行われました

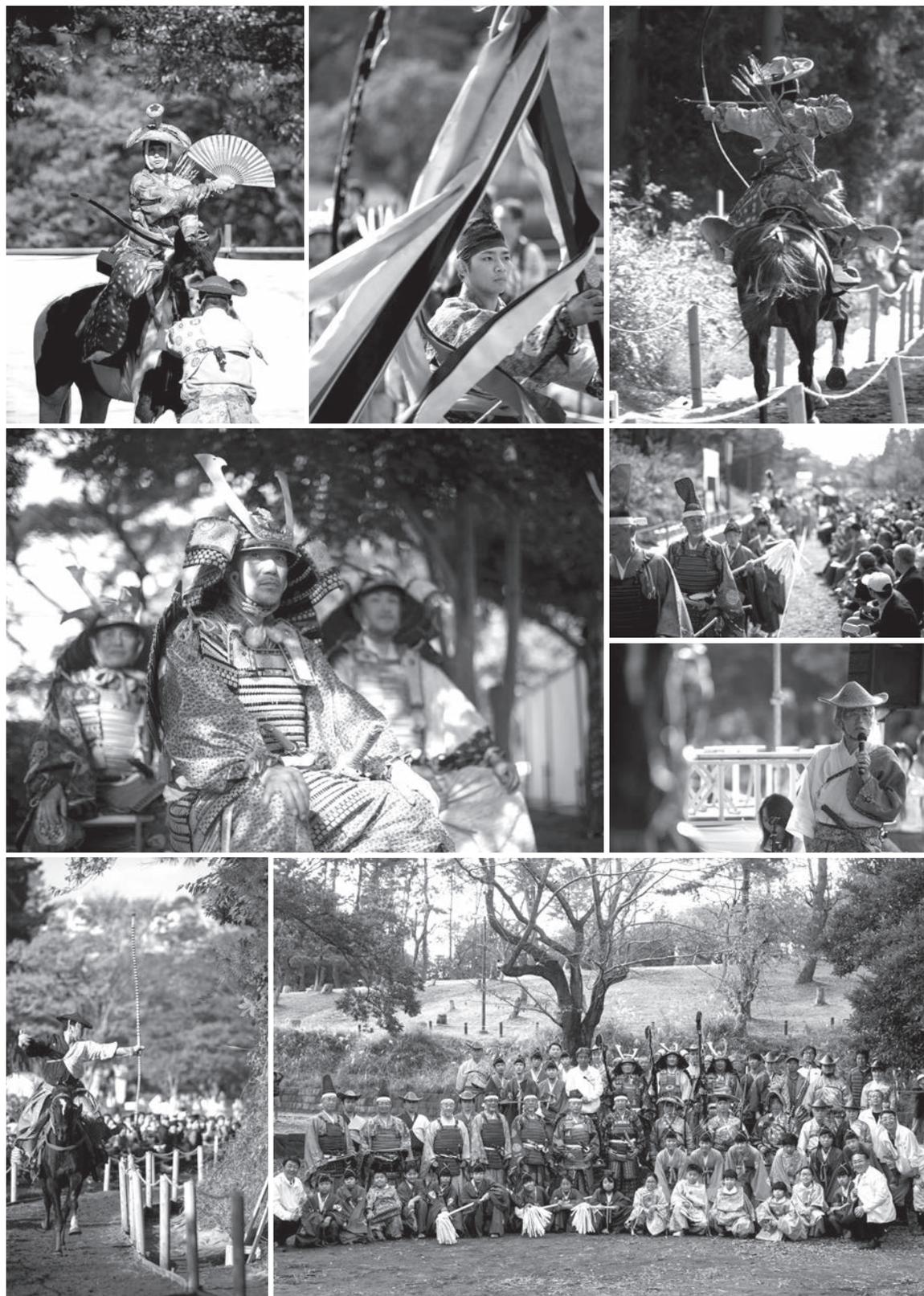


「昨年の「姿」で『私と小笠原流』を寄稿してくださった古川直季様(横浜市会議員)のお力添えのもと開催されました。2015年11月に小笠原教場にて『雛飾りから学ぶ日本の文化』という講座を当法人主催で開催しました。その際に、当法人の会員の方がお連れになったのが古川様です。紹介して下さった方と古川様は横浜市旭区にお住まいですので、いつかは旭区で流鏝馬を執行してほしいというお話をされていました。その後、小笠原流の流鏝馬を旭区の方々に知っていただきたいと、様々な行事に旭区の方をお連れいただくようになりました。そして、2018年。旭区誕生50年の節目に流鏝馬をしようという機運が盛り上がるようになってきました。旭区は鎌倉武士である畠山重忠公終焉の地です。鶴岡八幡宮の隣には畠山重忠公邸跡があるのですが、いつも流鏝馬の際にはその石碑を見ていました。初代長清もきつと畠山重忠公とは何かしらの縁があったのではないでしょう。そんなことから、830年の時を経て、畠山重忠公終焉の地で小笠原家による流鏝馬を執行し、今一度、旭区の区民の方々に地元を執行し、今一度、旭区の歴史を知っていただくこととなりました。

小学校や、PTAの会合で講演をさせていただいたり、流鏝馬執行の前から流鏝馬を行う意義についてお話をさせていただき、またそれが旭区にて行われる意義を認知していただくことをまいりました。実行委員会は地元の方々が中心となつて集まってきた旭会が行ってくださいました。

様々な方面に許可などを取っていく中で、警察の指導により拝観者の制限を設ける必要が出てきてしまいました。不特定多数の方々が集まるには警備体制を強固にしなくてはならないということからです。そこで、拝観希望は往復はがきでの申し込み、というあえて時代の流れに逆らった方法で行いました。メールやネットからの申し込みは無責任になりがちですので、良い方法であったのではないかと思います。結果としては募集人数を大きく超える申し込みがあったようです。

さて、いよいよ本番が近づいてまいりました。大変立派な設えをして下さったのですが、大雨により馬場が前々日の夜に崩壊するという出来事が生じました。前日の午後の稽古までには全てを復旧して下さったのですが、少なからず「中止」という言葉がよぎった方がおられたのではないかとこの程の出来事でした。しかしながら旭会の方々が総出で復旧をしてくださったので、何の問題も無く稽古をすることができました。前日の稽古では地元の方々が拝観されたり、稽古を解説付きで御覧



いただいたり、講演をしたりと前日からも流鏝馬について、旭区の歴史についてご理解いただくことを行いました。

前日夜は、旭会の方のお取り計らいにより『満天の湯』を堪能させていただきました。

当日、多くの方々が拝観に来られたのですが、作家の小松成美さんや旭区長、神奈川県議の方など多くの方が旭区で流鏝馬を行う意義についてお話をされました。当初の理念の通り、旭区の方々に旭区の歴史を、流鏝馬を通して再確認していただきたいということをしつかりと行つたわけです。今回の流鏝馬は行政が関わっていることから、神事ではありませんでしたが、流鏝馬を行う意義に感銘を受けましたし、その思いは拝観者にも伝わっていたように思います。

流鏝馬が終わつた時には多くの拝観者の方が実行委員の方々に「ありがとう」という言葉を伝えていたようです。一般的には、あまり聞かれない言葉のように思います。

最後になりましたが、今回の流鏝馬におきまして多大なるご支援を賜りました a i d e a 株式会社 代表取締役社長 池田様に感謝を申し上げます。

2019年度の活動報告

講座について

子ども流鏑馬教室

教場にて、子ども流鏑馬教室を行いました。6回講座で稽古着の着方や木馬での稽古、弓の引き方などを行いました。この事業は文化庁の助成事業として行いました。

弓道教室

埼玉県北本市にあります小山弓具併設の弓道場にて、弓道教室を行いました。毎年、弓道教室を修了された方から門人になれる方もおられ、小笠原流の弓術の普及に貢献している教室です。

体験会について

弓術体験

東京都にあります、みたけ幼稚園の園児を対象に弓術体験をしていただきました。この会は、日本の文化に触れようという趣旨で、宝生流と日本舞踊の方と一緒にさせていただきました。

流鏑馬体験会

流鏑馬体験会を千本松牧場にて行いました。好天の中ご参加いただきました皆様には楽しんでいただけました。

小笠原流の体験会

和なびジャパン主催の講座において小笠原流の体験会を実施いたしました。これは、一橋大学 MBA コースの学生の方々に主に外国籍の方を対象とした講座となり、様々な日本文化を学ぶという趣旨の内容です。

その他

タイ、フィンランド、フランス、ロシア、ポーランド、アメリカでの演武ならびに講演会に協賛しました。

また、同施設では外国人の方を対象とした弓道教室も開催しています。

礼法教室

千代田区にあります区の施設をお借りし、水曜日の夜に礼法教室を行っております。講師には小笠原流の礼法を稽古されている門人の方々をお願いしております。週末や平日の昼間の稽古では時間が合わない方々に小笠原流の稽古をしていただける場として大変有用な機会を提供出来ていると考えております。

女性向け礼法講座

京都駅近くにありますキャンパスプラザにて女性向けの礼法講座を開催しております。平日夜京都駅近くということもあり、多くの方にご参加いただいております。

広報活動について

海外の方々に認知をしていただくためにウェブサイトを更新しました。

流鏑馬バーチャルリアリティ（VR）の作成を行い、国内外の方々に流鏑馬をご理解いただきました。

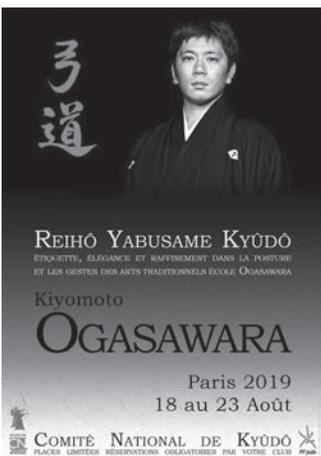
様々な道具の価格高騰にともない、門人の方々が求めやすい条件での道具の購入先などを検討しました。

道具の修繕に関わる環境整備をしました。



かしこい子どもに育つ礼儀と作法
よくわかる小笠原流礼法

著者 小笠原清基
1650円(税込)



会員制度と特典のご案内

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、新たに特別賛助会員を設置いたしました。
会員になっていただける方は下記事務局までお問い合わせください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
入会金	5千円	5千円	5千円
会費ならびに寄付金	一口以上 (一口1万円)	三口以上 (一口1万円)	一口以上 (一口10万円)

※特別賛助会員は総会での議決権が付与されませんことをご承知おきください。

	個人会員	法人会員	特別賛助会員
門人向け会報「糾方」(年二回発刊)	1部	3部	20部
会報「姿」(年一回発刊)	1部	3部	20部
行事拝観	2名まで	5名まで	20名まで
メールマガジンの配信(希望者のみ)	○	○	○
年四回小笠原流に関する記事の配信*	—	—	○
冊子への社名記載	—	—	○
教場での社名記載	—	—	○
税優遇	—	—	—

*社内報などに掲載していただくことが可能です。

ご寄付のお願い

NPO法人 小笠原流・小笠原教場では、小笠原流の伝統文化の保存と育成を目的としてご寄付をお願いしております。寄付いただける方は下記事務局までご連絡ください。

寄付金額:1回3千円以上

寄付いただいた方には、年二回発行される会報誌「糾方」と、ご希望の方には掲示板の利用案内を送らせていただきます。

税控除について

2017年に認定NPO法人となりましたので、寄付頂いた後に確定申告されると、寄付金控除を受けることができ、最大約半額が戻ってきます。

※詳しくは最寄の税務署にお問い合わせください。

NPO 法人 小笠原流・小笠原教場

<http://www.ogasawara-ryu.gr.jp>
e-mail npo@ogasawara-ryu.gr.jp

令和2年6月1日 特定非営利活動法人 小笠原流・小笠原教場 発行
編集・発行人 小笠原清基
〒251-0037 神奈川県藤沢市鶴沼海岸 2-17-4 TEL 0466-34-4089 FAX 0466-34-4102

©Ogasawara-ryū Ogasawara-school 2020 Printed in Japan